

TOSHIBA

人・モノ・街のこれからを考える

FUTURE DESIGN

心を熱くする
ラグビーを楽しもう!

VOLUME

74



©TOSHIBA BRAVE LUPUS TOKYO

東芝エレベータ株式会社



心を熱くする
ラグビーを
楽しもう!

近年、日本代表の活躍もあり人気急上昇のラグビー。鍛え上げた筋肉と筋肉を強烈にぶつけ合うが、試合後は互いの健闘をたたえ合う精神性を重んじる。ポジションごとに違う役割をそれぞれが担いながら、結束力と戦術で同じ目標を追いかける。

今回は、東芝ブレイブルーパス東京全面協力の下、ラグビーのリアルな魅力に迫ります。

写真提供：TOSHIBA BRAVE LUPUS TOKYO



人・モノ・街のこれからを考える

FUTURE DESIGN

2024 Vol.74

CONTENTS

03 **[特集]**
心を熱くする
**ラグビーを
楽しもう!**

14 **[連載]** 「わっしょいニッポン」
草草社 (デザイン事務所 / 長崎県五島市)

16 **[プレゼント]** Something Special
**東芝ブレイブルーパス東京
公式グッズセット**



COVER PHOTO

迫力あるプレーを
ぜひ会場でご覧ください!

東芝ブレイブルーパス東京でキャプテンに就任したリーチマイケル選手。体を張った迫力あるプレーは、間近で観戦するのが臨場感たっぷりです。

SDGsにつながる取り組み

2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標 (SDGs) には、17のゴールが設定されています。『FUTURE DESIGN』74号では下記の5つのゴールにつながる取り組みをご紹介します。



「東芝ブレイブルーパス東京 公式グッズセット」

FUTURE DESIGN 74号に対する感想をお寄せください。今回は裏表紙でご紹介した「東芝ブレイブルーパス東京 公式グッズセット」をご用意しました。アンケートにご回答いただいた方のなかから、抽選で10名様にお送ります。



● 応募締切

2024年3月31日

[サイズ (約)] □折りたたみクッション: 400mm×400mm □プリントマフラータオル: 1090mm×400mm □2Wayタンブラー: 幅80mm×奥行80mm×高さ170mm □レプリカミニボール: 幅180mm×奥行85mm×高さ85mm

● 応募方法

QRコードまたは下記のURLにアクセスし、アンケートにご回答ください。

<https://wss3.5star.jp/survey/login/da7hickw>



2024年1月発行

発行: 東芝エレベーター株式会社
広報室

〒212-8585

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34

TEL: (044) 331-7001

<https://www.toshiba-elevator.co.jp>

制作: 有限会社バース

印刷: 株式会社メディア グラフィックス

約200年の歴史

まずは知っておきたい ラグビーの歴史

きっかけはフットボール中のアクシデント!?
ラグビー発祥の起源から今日までの歴史を
ピックアップして紹介します。

HISTORY

ラグビーの起源

1823 — フットボールの最中にウィリアム・ウェップ・エリス少年がボールを持って走り出した。ラグビーフットボールの起源と言われるが、これには諸説あると言われている。

1866 — 横浜に外国人スポーツクラブ「Y.C. & A.C.」設立。日本駐在や寄港した英国人が試合を楽しんでいたよう。

1886 — スコットランド、ウエールズ、アイルランドで「R.F.B.」(国際ラグビーフットボール評議会)を設立。イングランドは1890年に加盟。

1899 — 日本ラグビー発祥の年。慶応義塾でE.B.クラークがケンブリッジ時代の盟友田中銀次郎とともに塾生にラグビーを教えた。

1901 — 日本での初試合と初トライ。慶応義塾がY.C. & A.C.と横浜公園で試合を行った。

1917 — 第1回日本蹴球大会開催。

1922 — 英戦艦レナウン号と初の親善試合。在邦外国人チーム以外との初手合わせだった。

1923 — 第6回極東オリンピック大会にラグビーが採用。

1926 — 日本ラグビー蹴球協会創立。

1962 — 早慶戦が初めて神宮競技場で挙行され、大学ラグビーは有料試合となる。

1960 — 関東社会人ラグビーフットボール連盟発足。

1962 — 第42回全国高校大会から、会場が西宮球技場から花園ラグビー場に移った。

1968 — 第1回アジア大会で日本代表が初優勝(1980年の第7回大会まで7連覇)。

1972 — ベースボール・マガジン社から「ラグビーマガジン」発刊。

1984 — アジア大会で日本代表が優勝。

1987 — 第1回ラグビーワールドカップをニュージーランド・オーストラリアで開催。

日本代表は、アメリカ、イングランド、オーストラリアに敗れ予選グループで敗退。

1989 — 全国社会人大会で、東芝が初優勝。

1989 — スコットランド代表来日、日本代表大金星(4勝1敗)。

1991 — ラグビーワールドカップをイギリス・フランス各地で開催。日本代表は予選敗退ながら、ジンバブエに勝利し初白星。

1996 — 日本選手権大会で、東芝が初の日本一(1998年まで3連覇)。

1998 — 全国社会人大会で東芝が優勝(1997年も連覇)。

1998 — 南米の強豪アルゼンチン代表を迎えたテストマッチで、日本代表が初勝利。

2003 — ジャパンラグビートップリーグ(以下、トップリーグ)開幕。

2004 — 日本選手権大会で、東芝が優勝。

2004 — トップリーグ、マイクロソフトカップで東芝が優勝。

2005 — 日本選手権大会、トップリーグ、マイクロソフトカップで東芝が優勝。三冠達成(日本選手権、マイクロソフトカップは2006年も連覇)。

2007 — 第6回ラグビーワールドカップ(フランスで開催)で、日本代表は大健闘も予選敗退。

2008 — 女子アジア大会で、日本代表が3位。

2008 — マイクロソフトカップで東芝が優勝。

2009 — トップリーグで東芝が優勝。

2011 — 2016年のオリンピック種目に7人制ラグビー採用決定。

2011 — ラグビーワールドカップ2011ニュージーランド大会で、日本代表は予選敗退。

2014 — テストマッチ10連勝で、日本代表が史上初のIRB世界ランキング10位。

2015 — ラグビーワールドカップ2015イングランド大会を開催。日本代表はベスト8を逃すも、南アフリカに勝利し世界を震撼させた。

2017 — 2015年〜2017年の女子アジアラグビーチャンピオンシップで、日本代表がチャンピオンに。

2016 — 日本の「サンウルブズ」が、国際リーグ戦のスーパーリーグにデビュー。

2019 — リオオリンピックで、セブンス日本代表が4位。

2019 — ラグビーワールドカップ2019日本大会を開催。日本代表は予選4試合を全勝で突破し、決勝トーナメントでは優勝国となる南アフリカに食い下がった。

2022 — 新型コロナウイルス感染症拡大により、日本選手権が中止。トップリーグも第6節で中止となり不成立に。

2022 — トップリーグに替わり、JAPAN RUGBY LEAGUE ONEが開幕。

2023 — ラグビーワールドカップ2023フランス大会を開催。日本代表はアルゼンチンに敗れ予選敗退。

2023 — 7人制ラグビー日本代表が、男女ともにパリオリンピックの切符を獲得。



大野 均さん

1978年福島県郡山市生まれ。大学からラグビーを始め2001～2020年東芝ブレイブルーパス所属。ワールドカップ3大会出場。日本代表98キャップ（国際試合参加数）は歴代最多。日本代表の最年長出場記録も更新。信条は「灰になってもまだ燃える」。引退後はフランス観光親善大使や東芝ブレイブルーパス東京 クラブアンバサダーなどラグビー普及に努める。

Hitoshi Ohno

INTERVIEW

日本ラグビー界のレジェンド 大野 均さんに聞いた ラグビーの魅力

東芝ブレイブルーパスにて19年活躍され、ラグビー人気の立役者の1人である「日本ラグビー界の鉄人」こと大野 均さんに、ラグビーとの出会いから現在までを伺いました。

——ラグビーは大学から始められたと聞いて驚きました。

そうですね。自分は小学校から高校まで野球をやっていたので大学でも続けるつもりでしたが、大学に入ってから構内を歩いているときに、ラグビー部の先輩に両脇を抱えられ部室に連れて行かれました（笑）。あまりに熱心に誘われたので練習を見に行くと、先輩後輩関係なくフラットな感じがすごく楽しそうだったんです。それで、ラグビーがやりたいというより、この仲間に入りたいなと。実際入ったら部員確保が死活問題の超弱小チームでした（笑）。でも、やって

みるとタックルで相手を倒し、スクラム組んでぶつかり合うなんて日常にはないことで、ボールを前に投げる、前に落とす、が反則という理不尽なルールも逆に面白いなど。加えて10か所あるポジション全て役割が違っていて、体が小さくても大きくても活躍できる場所がある。そうした個性の違う仲間が1つのチームになってゲームするのは面白いと思いました。

——プロまでの道のりはどうだったのでしょうか？
もともと体が大きくなって走れる方ではありましたが、未経験なので怪我をしないようウエイトトレー



ラグビーがやりたいというよりこの仲間に入りたいと思った



写真：川窪隆一/アフロススポーツ

ニングを重点的に始めました。2000年、大学4年の春に福島県の代表になると、その時のコーチが東芝府中の薫田コーチ（当時）と知り合いで、トライアウトに参加させてもらったんです。当時の東芝は日本選手権大会3連覇を成し遂げたチーム。そこに福島県の田舎から恐る恐る参加したわけですが、めちゃくちゃハードな練習で、肩を垂脱臼しながらも最後まで食らいついていたら根性は認めてもらえたようですね。ただ、まわりはテレビや雑誌で見ているすごい選手ばかり。自分が通用するとも思えず、とにかく選んでもらった感謝だけで、練習後や休日も人より多く練習しました。2年目の春頃から練習試合で使ってもらえるようになって秋の公式戦でデビュー。対戦相手は前年の日本チャンピオンのサントリーでいきなりの先発でしたが、そこで自信を持てた気がします。

——日本代表の最多キャップ保持者に上り詰められた秘訣は？

自分でも分かりませんが、その時々々に新しいモチベーションを持つようにしていました。「試合に

引退後もラグビー一筋! 大野さんの現在の活動に注目!

引退後はフランス観光親善大使や東芝ブルーパス東京のクラブアンバサダーなどでラグビー普及に取り組まれている大野さん。あらためてラグビーへの思いを伺いました。



フランスでワールドカップが開催された昨年、フランス観光親善大使に任命された大野さん。(右) 南仏を観光した際の、エクス・アン・プロヴァンスの朝市。(左) 日本対アルゼンチンの試合を解説。



——現在どのような活動をされていますか？

引退後、東芝ブルーパス東京の運営側としてスポンサーの獲得や集客への取り組みをしていましたが、今は完全にフリーとなり、ラグビーの魅力をより多くの方に届けることをミッションに活動しています。その1つに、小学生のラグビー全国大会「ヒーローズカップ」の実行委員長をさせてもらっています。最近、小学生で勝ち負けを決めるのはどうかという議論がスポーツでもありますが、試合で負ける悔しさはもちろん、負けたチームが勝ったチームにエールを送る姿勢などを見ているとこっちもグツときますし、こういう経験も大事なんじゃないかと私は思います。

——ラグビー初心者でも楽しめる方法を教えてください。

プレーとしては、コンタクトしないタッチラグビーやタグラグビーもあるので、一度やってみると仲間と一緒にプレーする楽しさを感じてもらえると思います。一番のおすすめは、実際にスタジアムで観戦することです。ルールが分からなくても、そこにいるだけで楽しめるはず。ラグビーってファン同士のぶつかり合いがなく、相手チームの良いプレーには拍手や声援を送ってたたえるんです。そういう分け隔てないスポーツの楽しさを、ぜひ直に体験してほしいと思います。

——ズバリ、ラグビーの魅力とは何でしょうか？

キツイ、汚い、危険の3Kスポーツとよく言われますが、ノーサイド(試合終了)になった瞬間に互いの健闘をしっかりとたたえ合う精神性を重んじるスポーツなんです。さっきまでバチバチ喧嘩みたいなことやっていた相手と、握手したり抱き合ったり普通はできませんよね(笑)。ただ、痛いスポーツだからこそ、互いの痛みも分かるというか…。でも、今引退して思うのは、よくあんな痛そうなお話をやってるなと思いますね(笑)。

出たい」から始まり、「東芝でレギュラーに」「日本代表に」「ワールドカップに」と…。臨んだ2007年、初のワールドカップでは3敗1引き分けでしたが、そうなるも次は勝ちたいとなります。それで2015



——日本代表の変化の背景には何があったのでしょうか。

まずはエディ・ジョーンズヘッドコーチになって、体験したことがないほど練習がハードになったこと。そして、日本チームの特性に合わせた栄養管理や、それまでの常識を覆すような練習方法に変わったことがあります。

日本代表が2013年にウェールズに勝った試合です。実は、2004年の初対戦は98対0の大敗でした。自分はこの試合には出ていませんが、目の前で諸先輩がボコボコにされるのを見て、世界との差に愕然としました。それから9年後に自分が先発で、まさか勝るとは思っておらず、勝った瞬間は溢れる涙でまったく前が見えなかったのを今も覚えています。

それまでの日本代表は、途中で良い試合をするのに一旦流れが向こうに行くや弱気になって最後は引き離される展開でした。これもそうした練習を積んだことで、特に2015年の南アフリカ戦での勝利以降は選手の意識が大きく変わり、自分たちは勝てる国、必ず巻き返せるという強いマインドでプレーするようになったんです。さらに、皆さんの応援がすこ

あの惨敗から9年。強豪ウェールズにまさかの勝利。 溢れる涙で前が見えなかった

あっという間に二十数年。「最初に練習に招かれたあの日と、グラウンドもクラブハウスも全然変わってないですね」と大野さん。



く力になりました。それが良いパフォーマンスにつながり、勝ちにつながる。自分の現役時代はスタジアムが日本代表のユニフォームで埋まるなんて、なかなかなかったことです。今の選手はファンの皆さんからものすごく大きな力をもらっているはず。ラグビーをやってきて良かったことは？

一番大きいのは、いろんな仲間ができたことです。みんなとワイワイ練習しているのが楽しかったからこそ、20年近くも現役を続けられたのだと思います。また、我慢強さも多少は身に付きましたし、仕事面では自分の仕事を

100%やり切るこの大切さや、いろんな国の選手と打ち解けるなかで多様性という面でも学びは大きかったと思います。振り返れば、私がここまで続けてこれたのは周りへの感謝があったから。なんの実績もない自分を東芝の練習に連れて行ってくれた大学の先生や、拾ってくれた東芝の薫田コーチを筆頭に、ここまでついてくれた多くの方々の思いに込めたい一心で、ハードワークを続けてこれたのだと思います。ファンフォーオール、オールファン。自分のためではなく、みんなのためにぶつかり合うその姿がラグビー最大の魅力だと思いますね。



楕円のボールに触ってみる

なかなか触る機会のないラグビーボールですが、興味があれば安価なものを購入してみるのもいいかも。ワールドカップでのトップ選手同士の試合を見てみると、弾むボールを追いかける選手は、いとも簡単にキャッチしては左へ右へとパスを展開していきますが、この楕円形が実は曲者。まず、投げても蹴っても真っ直ぐ飛びません。「え?」「なぜ?」「どういうこと?」と、とにかく苦戦すること間違いなし! 実際に触れてみることで、より一層、選手の技に感動するはず。また、ボールがどこに行くか分からないだけに、結構良い運動にもなったりします。

80年代、荒廃した高校に着任したラグビー部の監督が、無名の弱体チームを7年で全国制覇まで押し上げる実話ドラマが人気になったり、最近も予算難の社会人ラグビーチームを舞台にした人間ドラマが話題になったり。誰かが誰かのために立ち上がり、心を動かし、最後はチーム全体で大きな変革を成し遂げる。ラグビードラマはどれも観ているこちらを熱くさせてくれます。ほかにもラグビーにまつわる名曲や漫画などいろいろあります。今までラグビーに無縁だった皆さんも、この冬、ゆっくりとラグビーを感じてみると、心の奥底に眠っていた青春の熱い思いが蘇ってくるかもしれませんよ。

ドラマや曲から入ってみる



01

簡単なルールを覚える

危険プレーをしない、常にボールを奪い合う状況を作る、常に立ってプレーする、ボールを持つ人が先頭、の4原則を守り、通常15人制で、試合時間は前半後半各40分+12分以内のハーフタイム。基本得点はトライ5点、トライ成功時のコンバージョンゴール2点、ペナルティゴール・ドロップゴール各3点。ポジションは、体を張ってボールを守り、前に進めていくフォワードが8人と、スピードを持って走り、ボールをゴールまで運ぶバックスが7人。その中にも細かなポジションがありそれぞれ役割が違います。

また、スクラムは反則などで途切れたプレーを再開する時に行います。最近ではテレビ放映中やスタジアムの大型スクリーンにルール解説が表示される場合もあります!



初心者の皆さんに送る ラグビーを楽しむ5つの方法

ラグビーにまったく関心がないという人も、よく分からないから観たことがないという人も、今日からラグビーが好きになる、かもしれません!



とりあえず観戦してみる

ルールは完璧に分からなくていいんです。選手や関係者、ファンが口を揃えて言うのが、「とにかく一度、スタジアムで観戦してみてください!」。なので、騙されたと思って、ぜひ一度行ってみることをおすすめします。

そうすると、まずはチケット。オフィシャルチケットサイトやプレイガイド、もしくは当日券を現地で購入。選手が間近で見える前方の席がおすすめです。選手の体がぶつかり合う音まで聞こえ、テレビで観るのは違う生の迫力が感じられます。そして、できれば試合開始の1~2時間前に到着すると、スタジアムグルメやイベントなども楽しめます。寒い季節の屋外スポーツのため、防寒と感染対策はしっかりとしておきましょう!

推しの選手を見つける



人にすすめたいほど気に入っている人やモノに対して、最近では「推し」と言ったりします。いわゆるファンになったその対象者のことを指すわけですが、ラグビーでも気になる「推し」の選手を見つけてみてはどうでしょう! 歴史的には平尾誠二さんや、現役スター選手でいえば東芝のリーチマイケル選手など、テレビやメディアでお馴染みの選手もいますが、ラグビーをあまり知らないという方には日本代表や所属チームの公式サイトや選手の紹介ページがおすすめ。選手の写真をはじめプロフィールや成績などが掲載されており、そこからSNSなどで深掘りしてそのひととなりに触れることもできます。推しの選手を見つけたら、ぜひ本物に会いにスタジアムで観戦に行ってみてはどうでしょう?

ちなみに、東芝プレイブルーパス東京のメンバー紹介はこちら→<https://www.bravelupus.com/member/>



No.8 (ナンバーエイト)

リーチ マイケル
MICHAEL LEITCH

先陣を切って戦うプレースタイルが魅力で、体を張った迫力あるディフェンスも見どころ。チーム愛が強く、大の日本好き。2度目のキャプテン就任の今シーズン、気合十分。



LO (ロック)

ワーナー・ディアンズ
WARNER DEARNS

20歳で日本代表入りしたチーム最年少の21歳。2mを超す長身でありながら機動力もあり、世界を見て非常に珍しい選手。ワールドカップの経験でさらなる成長を遂げる。



WTB (ウイング)

ジョネ・ナイカブラ
JONE NAIKABULA

フィールドの外では物静かでシャイな選手だが、ボールを持つと激しいプレーを見せる。爆発的なスピードと決定力が武器で、チームのトライの半数に関わるトライゲッター。



SO (スタンドオフ)

リッチー・モウンガ
RICHIE MOUNIGA

オールブラックスのSOで、ラグビー好きは誰もが知るスーパースターが仲間入り。トライの起点となるランニングスキルが武器。彼のプレー次第で勝敗が変わるといわれるキーマン。



FL (フランカー)

シャノン・フリゼル
SHANNON FRIZELL

モウンガ選手同様、オールブラックスのスター選手。パワフルな走りでの突破を見せるが、型にハマらない器用な選手でもある。8番のリーチとの共演はファンからしたら堪らない。



HO (フッカー)

原田 衛
MAMORU HARADA

体を張り、常に全力で動くプレースタイルが魅力。時間を捻出してトレーニングに勤しむストイックさでチームに勢いを生み出す。2年目ながらバイスカプテンを担う。



SO (スタンドオフ)

松永 拓朗
TAKURO MATSUNAGA

大学時代のSOからフルバックへ転向。それがハマり、突破力が開花。キック力もスピードもあり、チームに欠かせない存在に。モウンガ選手との掛け合いが化学反応を起こす。



FL (フランカー)

佐々木 剛
TAKESHI SASAKI

器用なフォワードの選手。相手とのコンタクトに強く、ボールを取り合うプレーが見どころ。フランカーには世界の名選手がたくさんいるが、その中でも引けを取らない若手の有望株。



FL (フランカー)

山本浩輝
HIROKI YAMAMOTO

試合に出たらひたむきに動き続け、必ず結果を出す。誰もが諦めてしまう瞬間も、もう一歩踏み出してチャージをする選手。昨年は怪我に苦しんだが、今シーズンの活躍が期待される。

東芝グループのラグビーチーム 東芝ブレイブルーパス東京の 今シーズンの活躍に期待!

今シーズンのチームの見どころや注目選手を、元日本代表で、現在は選手の採用や広報活動に従事する望月さんにお聞きしました。

写真提供: TOSHIBA BRAVE LUPUS TOKYO

お話を伺ったのは

東芝ブレイブルーパス東京(株)
事業運営部 スペシャリスト

望月雄太さん

Yuta Mochizuki



今後の主な試合予定 (ホストゲーム) NTT JAPAN RUGBY LEAGUE ONE 2023-24

第7節 ————— 2月24日(土)
東芝ブレイブルーパス東京 VS 横浜キャノンイーグルス
秩父宮ラグビー場(東京)

第10節 ————— 3月17日(日)
東芝ブレイブルーパス東京 VS 三菱重工相模原ダイナボアーズ
秩父宮ラグビー場(東京)

第11節 ————— 3月24日(日)
東芝ブレイブルーパス東京 VS リコーブラックラムズ東京
秩父宮ラグビー場(東京)

第13節 ————— 4月14日(日)
東芝ブレイブルーパス東京 VS コベルコ神戸スティーラーズ
東京都内

第15節 ————— 4月27日(土)
東芝ブレイブルーパス東京 VS 東京サントリーサンゴリアス
東京都内

最新情報とビジターゲームについては公式サイトでご確認ください。
<https://www.bravelupus.com>



東芝ブレイブルーパス東京の強みは、体をぶつけるパワフルなプレーと、ボールを上手く展開していく躍動感あるプレーです。今シーズンの見どころは、加入したオールブラックスの2人の選手とチームメンバーとの化学反応。彼らとリーチたちとの共演はファンの皆さんにとっても堪らないシーンだと思います。また、若手選手にとっても、高いレベルのプレーを直で見られることは大きな学びとなり、さらにチームが勢い付くと期待しています。ラグビーは生で観戦するのが一番。ぜひ会場にお越しください。

草草社 故郷の魅力を再発見。 デザイン力で島を元気にする

五島列島・福江島で活躍するデザイナーの有川智子さんは、モノが生まれる現場に足を運び、依頼者と並走する。有川さんと仲間たちに会いに行った。

●写真 阿部了 ●文 阿部直美



長崎県
五島市
堤町

「ソトノマ」にて。左からスタッフの松尾さん、草草社代表の有川智子さん、母の和子さん、久保さん、桑田さん。

呼ばれたら、すぐに行けるのが私の強み

玄関を入ってすぐの土間に、有川智子さんの仕事場がある。地元農家のおじちゃんたちも、長靴を脱がずに気軽に立ち寄れる場所だ。有川さんは長崎県の福江島在住のデザイナー。もやしのパッケージから、スッポン、かんころ餅、ジン、椿油と依頼されるデザインの内容は幅広い。島内の各教会に置いてあるパンフレットも作っている。

有川さんは、とにかく依頼者のもとへ足を運ぶ。五島名物かんころ餅ならば、さつまいもを植えるところ、秋の収穫、冬の寒風干し、正月前にも餅米を一緒につくるところまで1年を通して現場に立ち合う。スッポンだったら、山中の養殖池に同行。水の温度はどれくらいか、育て方は、卵はどこで産むのか、聞き取ってメモを取っていく。もう取材の域である。そこまでやって、モノの背景を知った上でデザインを提案するのだ。「呼ばれたら、すぐに行けるのが島で暮らす私の強み。整骨院に来てくれれば、って言われれば、マッサージ中に話を聞くことだってあるんですよ」と笑う。



(左) 古民家再生のデザインも。工務店の神田さんと解体前の打ち合わせ。
(右) 有川さんがデザインした五島列島酒造の焼酎ミニボトル。

やデザインを学ぶ。大学院を卒業後、ハウスメーカーの研究所に就職。人間やペットがどうしたら居心地よく暮らせるのかを調査、研究する仕事はやりがいがあった。面白かった。ただ、直接誰かの役に立てる仕事をしたいという思いが強くなり、起業を考えるようになる。福江島には祖母や親戚がいて、美しい海で泳いだり祖父と散歩をした思い出もあった。2011年29歳の時、大阪から福江島へ移住。当時2歳だった息子の名前から



一文字もらって、「草草社」を立ち上げた。それまで、島の土産物やパンフレットなどは、同世代や女性たちが手にとりたくなるものが少なかった。デザインは印刷屋が請け負うため、筆文字の「五島」を何色にするかくらいは選択肢しかなかったのだ。島の人たちはデザインにお金をかける発想がないため、そこも難しいところだった。「最初は五島列島の地図を入れてはーんとやってほしい、みたいな要望が多かったです。何案かを出す時には地図を入れておくんですけど、途中でこそっと抜いて、こっちがいいですよねって何気なく誘導して」。デザインが変わると、買い手やバイヤーの反応も大きく変化した。「いいね」と商品を褒められた作り手にとっては、やる気と自信につながる。デザインで地域の企業や生産者が元気になる。これこそ、有川さんのやりたかったことだった。

一方「ソトノマ」は、誰もが気軽に集まれる場所、コミュニティカフェとして移住前からどうしても欲しかった地域の居場所だ。子ども時代に文房具やお菓子を買いに行った懐かしの商店が閉店し、そこを母・和子さんが借りて皆でリノベーションした。90歳近い大家さんは、賑わいが戻ったことが嬉しくて、カフェにしよっっちゃう顔を出す。オープンから

10年経った今、ソトノマはまさに、外の居間状態で、子どもたちが畳の上に寝転がってくつろいでいた。移住者にとっては、地元の人と知り合える貴重な場所でもある。和子さんや、現在のソトノマのオーナーの桑田隆介さんが移住する人が、ここ数年は年間2000人ほどにもなるといって驚いた。空き家になっっている古い家を、リノベーションして再利用する流れもできてきた。壊すに惜しい家を、建築家や地元工務店の力を借りてゲストハウスや飲食店、私設図書館にする人も現れた。有川さん自身は、1年半前に古い民家を改装した一棟貸しの宿を始めた。こちらは、小学生の娘の名前の一文字から「菜」と名付けた。

デザインって何だろう、と改めて考える。有川さんの目を通して、島の人は自分自身や商品と真正面から向き合うことになる。思わぬところを指摘されたり、魅力に気づかされたり。それはきつと、当の本人が一番驚くことでもあるのだろうと思う。古びた家が崩れかけた石垣が、素敵に生まれ変わる。その時に、島民自身が島の魅力に気づくのだ。デザインは奥深い。人をわくわくさせる。有川さんのような人が日本各地にいたら、きつと面白いだろうなあ、と夢想してしまった。

気になるモノを見つけました

Something Special

22

チームスタッフが厳選した

「東芝ブレイブルーパス東京公式グッズセット」

ラグビーをはじめ、スポーツ観戦時に重宝すること間違いなしのこのセット。

まずは、試合観戦中のお尻をやさしく支えて、冷えからも防いでくれる「折りたたみクッション」。「2Wayタンブラー」は、ドリンクの保冷も保温も自由自在のサーモ機能付き。このクッションとタンブラーは

お花見やピクニックにも活躍しそう。また、「レプリカミニボール」は、手触り感は試合球そのもので、家に飾ればいつでもラグビー気分を味わえる。「プリントマフラータオル」を首に巻き、ぜひ試合会場に足を運んで、東芝ブレイブルーパス東京の熱い試合を生で観戦してみてください！

 合計10名様にプレゼントします。詳しくはP2へ



①「猛勇狼士 お尻冷えない折りたたみクッション」はペアでプレゼント ②「猛勇狼士 2Wayタンブラー」。真空2層構造で、チームのエンブレムがシックにプリントされている。ペットボトルを入れて使用しても、上部のシリコンカバーを外して直飲みのタンブラーとして使用しても良い ③「レプリカミニボール (小)」 ④「プリントマフラータオル」